

2. 発表内容

2. 1. 開会挨拶

(1) 国土交通省総合政策局

開会挨拶

国土交通省総合政策局次長

平山芳昭

ただいまご紹介いただきました、国土交通省総合政策局次長の平山でございます。本日はご多忙のところを EST スタート・セッションにご参加いただきまして誠にありがとうございます。開催にあたりまして、一言ご挨拶をさせていただきます。

この EST スタート・セッションは、EST、すなわち環境的に持続可能な交通という考え方や取組みについて多くの皆様方にご認識いただき、それが新たな EST の取り組みの契機となることを目的といたしまして、開催しております。

いわゆるこの EST でございますが、もともと欧州の経済開発協力機構（OECD）において 1995 年頃から検討が開始されてきたものでございます。長期的な視野で環境面から持続可能な交通を実現するための交通環境政策を策定する仕組みとして、地球温暖化に対する強い危機感をいできております欧州諸国で盛んに取り組まれている手法でございます。

具体的には、公共交通機関の利用推進やいわゆるカーシェアリングといひましようか、マイカーを共用する手法などがございます。これらを組み合わせまして共通カードを導入したドイツのブレーメンの例や、使われなくなった線路、あるいは運河を歩行者や自転車の空間に転換したベルギーのパロン地方の取組みなどが代表的な例といわれております。

このような EST の取組みを我が国において広く紹介する機会として、2003 年 3 月に「環境と交通に関する名古屋国際会議」を開催いたしました。また、昨年のお・地球博の際にも「環境と交通に関する世界会議 in 愛知」などで広く EST について紹介を我が国でもおこなって参りましたが、今回の EST スタート・セッションでは、国土交通省、環境省、警察庁という 3 省庁が連携して 2004 年度から選定している EST モデル事業の現状などを紹介させていただきたいと考えておりますし、最新の状況を皆様にごらんいただくという事が今回の EST スタート・セッションの趣旨となっております。

国内の EST の推進につきましては、昨年の 4 月に閣議決定いたしました京都議定書の目標達成計画のなかで特に推進すべきものとして位置づけられております。EST については、特に CO2 に関する地域の環境改善目標を設定するわけですが、目標を達成するためには、いわゆる自治体或いは事業所など単体だけではなかなか難しいわけで、地域が一丸となりまして、関係者が手を携えたうえで実現をはかっていくということが非常に重要と認識しております。

このような運輸部門の地球温暖化対策の推進に向けた横断的な取組みとして、また先進的な取組みとして、この EST モデル事業が今後とも積極的に展開されていくことをわたくしは期待しているところでございます。

本日は年度末という大変お忙しい中にお集まりいただいたわけですが、本シンポジウムを通じまして参加していただいた方々からの地域における EST の取組みを大いに期待いたしておりますし、できれば皆様には、本日参加していただいた成果を地域にお持ち帰りいただいて、地域の EST の開始の契機となれば開催したわたくしたちとしても非常に幸いです。

本日は長時間ではございませんが、ぜひとも有意義な時間をすごしていただけることを期待いたしまして、わたくしからの挨拶といたします。

本日はどうもありがとうございます。

開会挨拶

環境省水・大気環境局自動車環境対策課長
岡部直己

皆様、ただいまご紹介いただきました、環境省自動車環境対策課長しております岡部と申します。本日はお忙しいところご参加いただきまして、まことにありがとうございます。

わたくしども環境省といたしましても、環境負荷の小さな交通体系をどうつくるか、先ほど平山次長さんからもお話いただきましたけれども、京都議定書目標達成計画それも抽象的な全体での数字の話し抽象論だけではなくて、個別具体的な取り組みをどう積み重ねたらいいか、ここが大変核心となる課題かと思っております。そうした意味で、この EST 事業の個別な取り組み、そしてその課題・問題があればどういった壁なのか、そういったことを浮き彫りにしつつ、各地域の成果や課題について、認識知識を共有化して行くことは、とても重要なことだと思っております。私ども環境省といたしましては、国土交通省さん、警察庁さんといわゆる縦割りの弊害に陥ることなく協働連携して、この仕事をさせていただいておりますが、とりわけ環境省は、都道府県ごとに地球温暖化防止活動推進センターという組織がございますので、こういったところを軸にしまして普及啓発を中心に組み合わせていただきたいと思いますと思っております。こうした組織にも、皆さんの課題などを引き続き伝え、対策の充実を図っていきたいと思っております。

それから国際的な話となりますが、先ほども平山次長さんからお話いただきましたけれども、去年 8 月の頭、名古屋で国際会議を行いまして、以後ヨーロッパの概念を参考にしつつ、アジアならではのアジア EST の概念を年に一回は少なくとも会合を開いて、意見交換をして意識の共有化を図りながら進めて行こう、ということになっております。

本日の頂きました議論など、こうした国際的な場においても、必要に応じて、ご紹介させていただくということも必要なのかと考えております。ぜひ活発なご議論をお願いしたいと思います。本日はどうもありがとうございました。